

# 全国薬草シンポジウム2019 inひだ

～飛騨で薬草の魅力を体験してみませんか～

10月12日(土)

会場：飛騨市文化交流センター（飛騨市古川町若宮2丁目1-63）

## Schedule

### スケジュール

13:00 オープニングセレモニー

13:15 あいさつ 実行委員長・飛騨市長

13:30 **基調講演**

飛騨の野山は薬箱 ～自然と循環する未来の暮らし～

講師：正山征洋氏（九州大学名誉教授 / 長崎国際大学名誉教授）

14:45 **トークセッション**

「薬草を活用した持続可能なまちづくり」  
～薬草活用で市民の暮らしはどう変わる？～

16:45 閉会予定

## 講師のご紹介



薬学博士 正山 征洋 氏

九州大学名誉教授 / 長崎国際大学名誉教授

日本生薬学会元会長であり、生薬学の第一人者として、海外講演や国内外の大学・企業との共同研究など現在も国際的に活躍されている。

九州大学大学院薬学研究科修士課程修了後、マサチューセッツゼネラルホスピタル（ボストン）博士研究員、九州大学薬学部助教授、同教授、2004年4月から2006年3月まで九州大学大学院薬学研究院院長・薬学府長・薬学部長。2007年4月から2018年3月まで長崎国際大学薬学部教授。宮田学術賞、日本生薬学会賞、西日本文化賞を受賞。

研究分野は、薬用植物のバイオ研究、薬理活性成分に関する研究。

飛騨市においては、薬用植物調査、ウェルネス飛騨古川構想提言のほか、地域環境保全と地域経済循環を目的とした生薬抽出残渣・農業集落排水汚泥の再資源化（高品質堆肥化事業）を行っていただいた。

## コーディネーターのご紹介

熊本県生まれ。（株）INAXから（学）産能大学（現・産業能率大学）に。同大にて企業の経営コンサルティングプロジェクト等に携わる。1995年秋～2007年3月まで『びれっじ』編集長。全国の農山村を自ら取材、執筆、編集。2008年3月、食・農業・環境の新雑誌『空ト風ニ』を創刊、編集長を務める（2008年7月休刊）。2008年10月地域と人の応援ドキュメンタリーサイト『いちぐう』立ち上げ、編集長。

現在は、独自の視点からの分析を武器に、地域づくりプランナー・コーディネーターとして、自治体や民間事業者の総合コンサルティング、6次産業商品化研修などを行う。

2018年3月、これまでのコンサルティングの経験からクライアントが軽視しがちで最も重要である“ブレない根っこ探し”をコンセプトに、クリエイター3人のユニット「てまかえ」発足。

2014年に飛騨市で開催された、全国薬草シンポジウムをはじめ、これまで数多くのシンポジウムなどのディスカッションを手掛け、会場とシンポジストとの対話を促しながら参加者の意識を盛り上げていくファシリテーションスタイルには、定評がある。



永田 マミ 氏

地域開発プランナー・コーディネーター  
クリエイターズユニット  
「てまかえ」プロデューサー



## 新田 理恵 氏 薬草編集者／TABEL株式会社 代表

管理栄養士であり国際薬膳調理師。食生活のアップデートを目標に、料理とその周りにおける関係や文化も一緒に提案し、地域の商品開発やレクチャーを行っている。

日本の在来ハーブ・薬草と出会い、リサーチをはじめて伝統茶ブランド{tabel}を2014年に立ち上げる。2016年8月にTABEL株式会社へと法人化し、薬草のある健やかな暮らしを提案している。2018年初春、薬草大学NORMを開校。著書「薬草のちから（晶文社）」も同年5月に発売。横浜市立大学の非常勤講師をはじめ、大学や各地でのゲスト講演やワークショップなども行う。

## 山下 智道 氏 ハーブ王子／野草研究家

福岡県北九州市出身、横浜在住。野草研究家・野草造園家・作詞家・作曲家・ヴォーカリスト。登山家の父のもと幼少より山・自然・植物に親しんだことが植物愛の基盤となり、的確・豊富な知識と実践力で幅広い年齢層から支持を集める。観察会やワークショップ等、全国を舞台に活躍中。テレビの出演や雑誌連載など多数。



## 北平 修子 氏 蕪水亭女将／薬草コンシェルジュ／ハーブティーマイスター

大阪府出身。短期大学卒業後、幼稚園教諭として勤務を経て結婚を機に飛騨古川に移住。以来30年以上料理旅館蕪水亭の女将として現在に至る。

また特定非営利活動法人「思い出の絵本展」を立ち上げ、絵本を通じて子育て支援や地域活性化に貢献している。

NPO法人 薬草で飛騨を元気にする会が主催する薬草ティーセレモニーでは、豊富な薬草の知識と親しみやすいキャラクターで薬草がより身近なものとなるよう広める活動を続ける。

## 廣瀬 俊介 氏 環境デザイナー

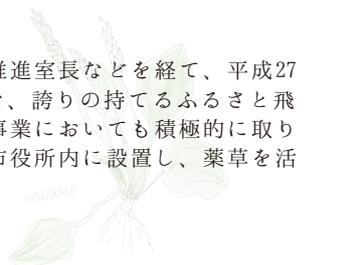
公園や並木道など戸外の生活空間を生態学的にデザインする活動を行う。2003-2014年、東北芸術工科大学（山形県）准教授。自然と人間の関係を調える環境デザインをめざすなかで、植物の薬効が里山のように一度利用目的のなくなった生態環境と人間を結び直すきっかけの一つにならないかと考え、飛騨市薬草活用事業への参画を通して正山征洋先生、村上光太郎先生、薬草に親しむ飛騨市民の方々に学んできた。

著書に『風景資本論』など。



## 都竹 淳也 氏 飛騨市長

平成元年岐阜県庁に入庁。梶原拓・古田肇知事秘書、障がい児者医療推進室長などを経て、平成27年に岐阜県庁を退職。平成28年に飛騨市長に就任し、「元気で、あんな、誇りの持てるふるさと飛騨市」の実現に向けて、幅広い分野でまちづくりを展開している。薬草事業においても積極的に取り組み、市長直轄事業として薬草ビレッジ構想推進プロジェクトチームを市役所内に設置し、薬草を活用したまちづくりを推進している。



<事務局 / お問い合わせ先>

飛騨市役所 地域振興課 〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2-22 TEL:0577-62-8904

飛騨市薬草ビレッジ構想  
推進プロジェクト公式HP



<http://www.city-hida.jp/yakusou/>